



「復興への道」 発刊のごあいさつ

社団法人 岩手県建設業協会
会長 宇部 貞宏

昨年3月11日東日本大震災が発生してから1年が経過しました。被害が余りにも甚大で関係機関の必死の捜索にもかかわらず、いまだに多くの行方不明者の方々がおられます。ここに改めて、犠牲になられた方々に哀悼の誠を捧げますとともに被害にあわれた方々に心からお見舞いを申し上げます。

今回の大津波によって、本協会会員、その従業員などにも多くの犠牲者を出し、会社社屋も流出するなど甚大な被害をこうむりました。そうした状況下で本協会会員は、余震が続く中で道路の啓開作業、損壊した道路・橋等の応急工事、がれきの撤去及び応急仮設住宅の整備に当たり、また、内陸部の会員も啓開作業やがれき撤去、さらには救援物資の搬入などを行ったところです。

いまだ被災地域においては地盤沈下対策、がれきの広域処理など多くの課題を抱えており、本格的な復興には、幾多の困難が立ちふさがっておりますが、一日も早い復興と平安な日が訪れることを願わざるを得ません。

国・県・市町村のご努力により、地域の復興のための新たな制度や計画づくり、予算の確保がなされ、いよいよ今年から本格的な工事も進展することが期待されているところです。

もとより建設業は、地域の住民生活や産業活動を支える社会基盤の整備・維持管理を担う基幹産業であり、災害に当たっては被災情報の収集や応急・復旧対策の最前線に立って地域住民の生命と財産を守るという重要な任務を担っております。

建設業協会といたしましては、今回の災害対応の教訓を踏まえ、燃料や応急資機材の備蓄、通信態勢の整備、緊急時の事業継続計画（BCP）の策定などに力を入れて参りたいと考えております。

地域の復興には多くの時間、労力と困難が伴うものと思われませんが、私ども建設業界は、県民の安全・安心、かけがえのない我がふるさとの真の復興のために、国・県・市町村等とともに総力を挙げて取組んでまいります。

最後になりましたが、今回の震災において全国建設業協会を始め、全国の建設業協会並びに関係団体の皆様には、心温まる御見舞いを賜り衷心より御礼を申し上げます。

また、このたびの復旧の記録集の発刊に当たりましては、国土交通省東北地方整備局長様、岩手県知事様を始め皆様方からごあいさつを頂戴し、誠に有難うございました。

また、この冊子の作成に当たりご協力を頂きました日刊岩手建設工業新聞社を始め関係各位に対しまして、厚く御礼を申し上げ、ごあいさつといたします。